

“戦闘服”である白衣は絶対「KANSAI」 20年間、同じデザインを30着以上購入

医 師にとっての白衣は、ビジネスマンにとってのスーツ、兵士にとっての迷彩服と同じ。言わば、戦闘服です。

当直明けでくたくたでも、患者さんの前では疲れた顔は見せられません。私的な心配ごとや悩みがあっても、着れば“仕事モード”にスイッチが入り、シャキッと見える——。白衣には、自分を高揚させるそんな効果を求めています。

若いころからファッションへの関心は強いのですが、仕事柄、1日の大半を白衣姿で過ごさなければなら

ず、私服でおしゃれをする時間はなかなか取れません。それもあって、せめて白衣は自分の気に入ったものを着ていたい。個性の感じられない普通の白衣では、モチベーションが高まりません。

そんな思いから、僕が選んだのがKANSAI（山本寛齋）の白衣です。北海道・利尻島の病院に勤務していたころに、カタログを取り寄せて自分で選びました。もう20年ほど、同じデザインの白衣を着続けていることになりました。綿100%で着心地が良く、デザインがすっきりとしている

ところにほれました。前身頃の重なりが浅めで縦のラインが強調され、スマートに見える点も気に入っています。

同じデザインで色違いのものを2種類用意し、外来診察用には白、内視鏡検査用にはモスグリーンを使っています。価格は上下各1万円程度。これまでに、30着は購入したでしょう。

この白衣をずっと着続けていたいので、自然と、体型にも気を遣っています。若いころと比べるとウエストサイズは3cm増えたけれど、もうこれ以上は増やしません！（談）



西野徳之氏

Noriyuki Nishino

総合南東北病院消化器センター長 ● 1987年自治医科大学。利尻島国保中央病院院長などを経て、2007年より現職。



「KANSAI」の同じデザインの白衣を、20年間着続けている。冬季は、白衣の下にスポーツ用のアンダーウェアを重ね着。

